



第42回NM-GCOEセミナー

長谷川 真理子 先生

(総合研究大学院大学・教授)

2010
10.28
加齢研
セミナー室

～加齢と寿命の進化、そしてヒトの特殊性～

日頃、遺伝子とか細胞、せいぜいが個体や個人といった、極小微細レベルでの研究に従事している我々は、長谷川真理子先生によれば、至近要因 immediate factor を視ているのであるとのこと。一方、そもそも、なぜヒト・ひとがヒト・ひとであるのかという、ひと・ヒトのよってきたる由縁、即ち究極要因 ultimate factor を研究するのが先生らのお立場であるとのことでした。ここにおいて私は、高名な進化学者、ドブジャンスキーの言明、“生命現象は何事であれ、進化の光を当てずには、本質は見えてこない”を想起したのです。加齢・寿命の進化様式におけるヒト生活史戦略の特殊性が、先生により説かれるに及び、将に彼の言の至当であることを本セミナーで学んだと言えるのではないのでしょうか。

佐竹 正延

(加齢研・免疫遺伝子制御研究分野・教授)



講師:長谷川真理子先生

本日の講演概要

- ・ 加齢と寿命の進化の理論
- ・ 生活史戦略の進化
- ・ 霊長類の生活史戦略の特殊性
- ・ ヒトの特殊性：
子ども、若者、老人の誕生



佐竹正延教授による講師紹介



大学院生の感想

- + 霊長類の脳の大きさが「仲間とどう付き合っていくか考える」ことに由来するという説が興味深かったです。ヒトが1人では生きていけないのはそういう風に生物学的に進化してきたからなのかなと思ったら、科学的に人類を見ること、考えることのおもしろさをとても感じました。
- + 文化や流行、慣習にとらわれずに人類を科学する視点と知見に多く触れることができ、とても楽しいセミナーでした。
- + life history という観点で見たヒトの特殊性というのがとても興味深かった。ヒトは身体的にも肉体的にも複雑に進化していることを考えさせられた。



専門外の人達にも理解できるように噛み砕いたご講演で、あっという間の1時間半でした。哺乳類の中でもヒトだけの持つ特性ということを知り、「だから、おばあさんはもっと頑張らないといけないのです！」の一言には、身が引き締まる思いでした。(支援室)

